

# 理事長・大学長 年頭挨拶

平成22年1月4日に講堂において行われた年頭挨拶で、田中理事長、北村大学長からそれぞれ次のとおり挨拶がありました。



## 平成22年の 重点目標

福岡歯科学園理事長  
田中 健藏

新年明けましておめでとうございます。

皆様、それぞれに良い新年をお迎えになられたことと存じます。今年が皆様にとって、また福岡歯科学園にとって、平和で良い年でありますよう、心から念じて止みません。

世の中の動きは大変に激しく、国外では経済不況、種族、宗教などの対立をもとにした紛争が続き、国内では政権が交代し、政治、経済、教育、医療などの多方面に亘り改革・変化が進められ、デフレ不況の波が大きく打ち寄せて、多くの困難な課題が提起されています。

私共は、そのような社会教育環境のなかで、歯科学園としての使命を認識し、建学の精神を忘れず、私共皆で作った中期構想の実現に努力したいと思います。新春を迎え、今年の重点目標として、第一に、「口腔医学(口腔科)」の学問体系の確立に向けて、社会、行政、学界、医療界の理解と協力を得るよう努力する。「患者中心の医療」の「知の統合」として、「口腔医学(口腔科)」を確立し医療の一専門分野として「医歯一元化」を実現することは、医療分野の人材育成に係る基本的課題であると思います。このため、「戦略的学術連携支援事業(「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」)」を推進し、3年間の調査研究を続け、「口腔医学(口腔科)」の医療人養成のためのカリキュラムの充実を努める。なお、大学、学部の名称変更に向けて、協議を開始したいと思います。

第二に、教育面では、国家試験対策等を充実し、歯科医師国家試験合格率の上位定着及び歯科衛生士試験合格率100%を目指し、各教科の担当教授、教員は、国家試験の各専門教科の成績が全国平均以上になるよう努力して下さい。また、学生本位の視点を重視し、きめ細かな履修指導等学生支援の充実に取り組むとともに、本学の特色を活かした「教育改革」に向けて、文部科学省の助成事業である「大学教育改革支援事業」等を推進する。

入学志願者と入学者水準の確保のために、選抜方法の検討を行うとともに、

オープンキャンパスや入試広報活動を戦略的に展開する。学生実習室の改善を行う。また、診療参加型実習の充実に努める。

医療短大は、歯科衛生士試験合格率100%を目指すとともに、歯科衛生学科専攻科の充実を図る。また、保健福祉学科の存続等について、抜本的な検討を行う。

第三に、研究面では、先端科学研究センターの活用等による大学院の研究指導体制の充実を図り、学部卒業生の進学、および社会人再教育の受け入れを増やして、魅力ある大学院への改革に努める。また、科学研究費等の競争的研究資金の獲得に努めるとともに、教育研究経費の配分および教員等の重点配置、医員の定員等の見直し等を行う。

第四に、医科歯科総合病院は、眼科等の近接診療科の開設、診療責任体制の確立、病院情報システムの充実等により、総合医療センターとしての拡充を図るとともに、患者増に努める。

介護老人保健施設、介護老人福祉施設は、地域の保健福祉に貢献するとともに、教育研究の場として機能するよう努力する。また、デイケア・デイサービスの利用者増に努める。

第五に、病院棟は、耐震性の確保と老朽化対策の観点から改築を前向きに検討する。地球温暖化対策として、エネルギー使用の合理化に努める。

最後に、第六として、学園財政の健全運営に努め、入学定員確保のため、学納金を検討し、それに関連する財政の見直しを行う。学園の活性化を図るため、人事考課制度を充実し、処遇に適正に反映させる。年度末手当および期末手当に、診療・介護事業収入や競争的研究費獲得等の財務貢献実績を勘案する。

教職員の資質向上のため、各種研修等の充実・強化を図る。

以上を今年の最重要目標として、皆さんと共に努力したいと思います。

今日までの青野常務理事、本田常務理事、北村大学長、栢短大学長、本川病院長、厚谷事務局長、松葉施設長、山川施設長をはじめ、教職員の皆さんが、教育、研究、診療、地域への貢献、学問的貢献という大学の使命実現のために、並々ならぬ御盡力をされたことに心から敬意を表し、今年もひきつづき、法人、教員職員が一体となって、正しい倫理観としっかりした価値観、それに目的意識を持って、明るく楽しい学園を作り、学生が意欲をもって勉学し、同窓生が誇れる母校をつくることを目指したいと思います。

今年が皆様にとって良い年でありますように、重ねて心から念じて、新年の挨拶と致します。

皆様、元気で頑張りましょう。



## 口腔医学元年

福岡歯科大学長  
北村 憲司

新年明けましておめでとうございます。2010年の新しい年を迎え、一言、ご挨拶申し上げます。

この数年、本学には厳しい冬の時代が続いています。歯科医師の収入が減少したことによって、歯科医師は過剰であるということが社会通念化し、あたかも歯科医師を育成する大学が大量に卒業生を送り出していることにその原因があるような捉えかたをされています。

確かに、歯科医師数が減少すれば個々の歯科医院の収入は増え、歯科医師過剰という声はなくなるでしょう。しかし、口腔疾患が減少したのでしょうか。口腔ケアを必要とする人に十分な医療の恩恵が与えられているのでしょうか。治療を受けるのに、何時間も待ち、数分で治療を終えざるを得なかった状況が望ましい医療なのでしょうか。今、私たちは、歯科医療が社会ニーズに対応できなくなったために生じた矛盾を「歯科医師過剰」というワンフレーズの中に押し込め、「歯科医師過剰」を解決すれば、すべてが解決するという虚構の中にいるように思います。65歳以上の高齢者が人口の3割に達している高齢社会にあって歯科医師の果たす役割は確実に変わってきています。従来の健康な人を対象とした歯科医療から、病気と共生している人を対象としたものへ、歯と周囲組織を対象としたものから全身の健康を担う口腔医療にその役割は大きく変わろうとしています。

社会が歯科医師に求めているのは数の削減ではなく質の変化です。歯と

その周囲組織に専門知識を持つ技術者ではなく、口腔と全身の健康に必要な専門知識を持った医師の育成です。そうした口腔医療を実践できる口腔医はこれまでの歯科医学教育では養成できません。臨床各科の素養を持った口腔専門医を育成する教育、口腔医学教育が求められています。これが大学に、医療に求められている社会の要請であり、この方向を見失わない限り、本学の未来は約束されています。私たちは「歯科医師過剰」という虚構に惑わされるのではなく、社会が必要とする口腔医の育成を、口腔医学によって自信を持って行うことが必要です。教職員全員が「口腔医学の確立」に力を合わせて欲しいと思います。

本学は今年で創立38年目を迎えます。大学としての歴史はまだ浅く、若い大学ですが、そのかわり何かを創造するエネルギーを持った大学です。伝統が人を作る大学ではなく、創造するエネルギーが人を作る大学です。創造するエネルギーは私たち教職員・学生の中にあります。私たち一人一人が福岡歯科大学を愛し、その一員としてやるべきことを、責任を持って行うことに創造するエネルギーが実在します。

2010年という節目の年の初めに当たって、大学の理念を実現するために自分ができることは何か、今年の目標として一つ掲げ、それを実行していただきたいと思っています。その力が卒業生が誇れ、在校生が意欲を持って学ぶ魅力溢れる大学に成長するための大きな力になります。

大学は淘汰の時代を迎え、大きな試練の中にいます。試練は人を苦しめますが、同時に成長を促します。医療を必要とする人にとって最善を考えることに間違えた道はありません。ウィリアムオスラーは「医学は患者とともに始まり、患者とともにあり、患者とともに終わる」と述べていますが、患者にとってよい医療とは何か、医療にとってよい教育とは何かをともに考えながら、本年が口腔医学を実践する元年となることを、また本学と皆様にとってよい一年となることを祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。